

経済学概論Ⅱ

科目ナンバリング EDE-102
選択必修 2単位

寺川 隆一郎

1. 授業の概要(ねらい)

経済学という学問は、17世紀頃の西ヨーロッパで、全国的市場が確立したのを受けて誕生した。そのため、経済学は、一貫して市場を、研究の主題としてきた。市場のもつ、資源を効率的に配分し、新たな商品や、生産方法を生み出す力は、どのように分析できるのか、市場が社会関係を流動化し、すべてを貨幣で一元的に評価することが、人間社会の経済以外の側面にどのような緊張をもたらすのか。経済学の歴史を振り返ると、これらの疑問に、論者たちが、様々のかたちで回答を与えてきたことが分かる。前期の「経済学概論Ⅰ」を踏まえて、本講義では、経済学の歴史に足を踏み入れ、市場と社会の関係についての、経済学の多様な洞察を学ぶことを目指す。

2. 授業の到達目標

経済学の基本的な考え方を習得する

失業や貿易、景気変動、環境といった経済と社会の境界領域については、経済学の内部でも多様な立場が存在することを理解する

3. 成績評価の方法および基準

平常点30%、期末テスト70%。平常点は、LMS上で受験する毎回の内容確認テストと、任意提出(こちらもLMS上で提出)のリアクションペーパーの内容で評価する。よいリアクションペーパーとは、授業内容を踏まえ、独自の考えが書かれているものである。

4. 教科書・参考文献

参考文献

松原隆一郎 『経済思想史入門』 ちくま学芸文庫

太田一廣ほか編 『新版 経済思想史』 名古屋大学出版会

5. 準備学修の内容

講義で学んだ内容を、目にするニュースや、自分の身近な出来事に当てはめると、どうなるのかを日頃考えておくこと。その時に気づいた疑問点や発見が、リアクションペーパーを書く際の材料になる。

6. その他履修上の注意事項

講義では、日々の経済ニュースの前提にある、基本的な考え方を解説する。新聞やインターネット、テレビで経済ニュースに意識して触れるようにすると、より理解が深まるだろう。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 市場メカニズムの理論①—新古典派の確立
- 【第3回】 市場メカニズムの理論②—市場と社会の境界問題
- 【第4回】 スミス①—一人と時代
- 【第5回】 スミス②—社会秩序を「同感」で読み解く
- 【第6回】 スミス③—総合知としての政治経済学
- 【第7回】 ケインズ①—一人と時代
- 【第8回】 ケインズ②—「古典派」モデル
- 【第9回】 ケインズ③—有効需要の理論
- 【第10回】 ケインズ④—投資水準決定理論と不確実性の問題
- 【第11回】 ケインズ⑤—ケインズのヴィジョン
- 【第12回】 ヴェブレン—社会心理と消費
- 【第13回】 ミンスキー—不確実性と金融
- 【第14回】 コモンズ—不確実性と制度
- 【第15回】 まとめと期末テスト